

第12回
 映画監督
 今村彩子さん

紙の上をすべるエンピツの筆跡から生まれる
 穏やかで優しいコミュニケーションがある。



<http://www.chigiri-paper.jp>



草 間町にある愛知県立豊橋聾学校は、設立から112年を迎える日本で3番目に古い歴史を持つ聾学校。ろう・難聴者の子どもたちにとって、東三河・奥三河エリアで唯一の貴重な学びの場であり、現在幼稚部から高等部まで85人の児童・生徒が通っている。この豊橋聾学校出身者に、ろう・難聴者の生活を取り上げたドキュメンタリーを制作する映画監督、今村彩子さんがいる。彼女は愛知教育大学教育学部に進み、在学中にカリフォルニア州立大学ノースリッジ校に留学して映画制作とアメリカ手話、アメリカろう文化を学んだ才媛。その経験を活かし、取材のフィールドは日本だけでなく、アメリカやカナダ、韓国にまで及び、グローバルな視点でバリアフリーやユニバーサルデザインを捉え、その想

いを映像作品に込めている。
そんな今村さんは現在、湖西市にある一軒のサーフショップを舞台に映画を制作中だ。その店のオーナーである太田辰郎さんもう者だが、30年以上のキャリアを持つサーファーで、自らサーフボードを制作する職人でもあり、3年前、念願を果たして自分の店を開いた。お店にやってくるサーファーたちは、はじめ、耳が聞こえない太田さんのことが理解できず、怖がって出て行ってしまったという。そこで太田さんが考えたのが、自らも愛飲するハワイのコーヒーをサービスすること。お店に入ると、まずコーヒーを淹れて、身振り手振りでお客にすすめる。カウンターには「わたしは耳が不自由です。筆談をお願いします」と書かれたノートとエンピツが置かれている。これなら入って

来た人もすぐに理解でき、筆談でコミュニケーションが始まるというのだ。ただ、筆談といいながらも、日本人というよりもハワイアンなイメージのある大柄でユニークな太田さんは、声を出しながら、大きな身振り豊かな表情で話しかけてくれる。そんな太田さんのキャラクターも手伝って、手話とは全然縁のなさそうなサーファーたちも気軽に店に集い、楽しそうに身振りや手振りを交えて話していく。その様子に今村さんは感動し、「珈琲とエンピツ」というタイトルで映画を作ろう、と決めたのだ。

昨年の9月以来、毎月一度、太田さんのショップを訪ねて撮影を重ね、2011年に完成予定。映画を作るには多額のお金も必要で、カウンターにはカンパを募る貯金箱が置かれているが、そ



こには店に来る人たちが入れてくれた千円札が何枚も集まっていた。それでもきつと制作費には遠く及ばないが、「珈琲とエンピツ」から生まれるコミュニケーションが映画になる、その夢に共感し、完成を心待ちにする人たちがこれだけいることに胸が熱くなった。



▼プロフィール[いまむら・あやこさん]
 1979年、名古屋生まれ。愛知県立豊橋聾学校、愛知教育大学教育学部卒業、カリフォルニア州立大学ノースリッジ校留学。Studio AYA代表(2005年設立)。名古屋学院大学、愛知学院大学で講師をする一方、ろう・難聴者を取り上げたドキュメンタリーを制作。全国各地で自主上映や講演活動も数多くこなす。

▼Studio AYA 販売中のDVD
 「サラリーマンライフ〜ろう者と聴者が共に働く職場づくり〜」(2008年 58分 文部科学省選定作品)
 「ユニバーシティライフ〜ろう・難聴学生の素顔〜」(2006年 46分 文部科学省選定作品 04'聴覚障害者映像フェスティバル大賞受賞)
 ともに¥2,500(税・送料込)
 URL <http://studioaya.com/>
 E-mail studio_aya_ai@yahoo.co.jp

協賛店・協賛企業